



# 地縁がないからこそ安心される一面

茨城県弁護士会 加藤 怜

## 1. 自己紹介

私は、修習66期です。修習後9年10か月の間、勤務弁護士として経験を積ませていただき、令和4年11月より茨城県稲敷市内で独立開業いたしました。

私は東京で生まれ、小中高と千葉で育ちましたので、茨城は「地元」ではありません。ここでは、地縁がない地域で独立開業した経緯や、開業後の感想などについてお伝えしたいと思います。

## 2. 稲敷市について

私の事務所がある茨城県稲敷市は、人口が約3万7000人、茨城県の南端、利根川をはさんで千葉県と接する位置にあります。東京都心からの距離はおよそ60キロメートルです。市内に鉄道は通っていません。

管轄裁判所は、水戸地方・家庭裁判所龍ヶ崎支部です。常駐裁判官が2名、支部管内の弁護士数は約50名で、その多くは鉄道沿線の地域で活動されています。

## 3. 開業までの経緯

私は、勤務弁護士として様々な案件に接していく中で、直接相談できる身近な弁護士の存在を求めている方が相当数いることを体感しました。中には、「地元には法律事務所がないから」と1時間近く車を走らせて法律相談にいらっしゃる方もいました。



事務所外観

このような経験から、期せずして独立することとなった際、開業場所として第一に候補に挙げたのは弁護士がいない地域でした。

私の開業した稲敷市は、それまで勤務していた龍ヶ崎市から車で約40分程度かかりますが、当時から時間をかけて龍ヶ崎市まで相談に来られる方も多くいらっしゃいました。稲敷市の隣接市町村に目を向けても法律事務所がないところが多く(隣接する弁護士不在自治体を合わせると、その人口は合計で約12万人になります。)、千葉県側で隣接する地域は千葉地方裁判所佐原支部管内で、この地域はいわゆるゼロワン地域です。

そのため、これら地域の皆様にとって直接相談できる身近な弁護士となろうと考え、稲敷市を選定しました。

## 4. 業務の状況

開業に際して、稲敷市はテナント賃料が安く、初期費用は抑えることができました。しかし問題は、オフィステナントの賃貸がほぼないことでした。最終的には、ちょうど賃貸に出ていた手ごろな広さの元カフェの店舗を賃借しました。やむを得ずの選択でしたが、相談に来る方からは相談しやすい雰囲気だと意外な好評をいただいております。

現在、当事務所は弁護士1名のいわゆるワンオペです。そのため、電話代行の活用、複合機を活用したデータFAX、ごく簡易なデータベースシステムを構築し電子化した記録と組み合わせて案件管理をまとめることなど、コストを抑えつつ省力化できるところは可能な限り省力化できるよう工夫しています。

テナント賃料、複合機リース、通信・光熱費、広告、判例システムやクラウドシステム・アドビなどの継続課金等、全体の事務所経費としてはおおむね月額30～



事務所裏手の風景  
春は川沿い一面が  
桜並木となる



稲敷市の豊かな  
農村風景



地域随一の大きさを誇る大杉神社  
茨城の日光東照宮との異名がある

40万円前後を目安としています。

おかげさまで開業当初より地域の皆様には好意的に迎えていただき、現状はなんとか事務所運営ができております。

相談割合としては、個人7～8割：法人・個人事業主2～3割のイメージです。月の新規相談件数は、法テラスを含めおおむね15件前後です。

受任案件の件数割合は、交通事故・契約・不動産などの一般民事関係が約35%、破産を中心とした債務整理関係が約30%、離婚・相続などの家事分野が約15%、裁判所や自治体からの委嘱を受けて行う業務が約15%、被告人国選を中心とした刑事関係が約5%といった割合で推移しています。

## 5. 1ターンの開業について

これは開業した後にわかったことですが、地縁のない地域での開業だからこそ多く相談をいただいているという一面があるようです。

稲敷市には何代にも亘ってその地域で暮らしている方も多く、その周りに住む人も同様で、皆さんお互いのことをとても詳しく知っています。

地元出身の隣接士業の方が仰っていたことですが、昔からよく知っていたり、数代たどると親戚だったりするという地元の人には、なかなかあけすけに家族関係やお金関係の相談はしにくいのではないかと、弁護士のように紛争解決が主となる業務の場合は、むしろ地縁がない方が安心できるはず、とのことでした。

私は開業前、地縁がないことで、むしろ「よそ者」として警戒されるのではないかと危惧していましたので、これは意外なことでした。

言われてみると、確かに地元出身かを聞かれた際に違うことをお伝えすると、安心した表情をされる方がいらっしまったことに思い当たります。

## 6. 最後に

過疎化が進む地方での事務所運営には不安が残ることは確かですし、弁護士不在地域では、弁護士の使い道からアピールする必要があり、複数の弁護士から「選ばれる」のとは異なる苦勞があります。

しかし、この点は、一つ一つの事件に丁寧に向き合って信頼を勝ち取るほかないと考え、地道に日々研鑽しております。

マチ弁は、あらゆる分野の相談に対応する必要があり、またあらゆる個性に直接接することが日常です。業務は常に不安と隣り合わせですし、不甲斐ない自分にストレスがたまるともあります。自分なりに何らかのストレスの解消方法を確立しておく必要性は高いと思います。

わたしは、地方ならではのストレス解消として、愛車86での山坂道ドライブ（法定速度）を楽しんでいます。社外マフラーから快音を奏でつつ愛車を駆れば、ものの5分ですぐに雄大な自然の中に包まれることができる環境は、地方ならではの魅力です。

そのほか、近隣の方から「うちの畑でとれたんだよ」と言って旬の野菜・果物をいただいたり、「新米が収穫できたから」と言って分けていただいたりなど、人間の「近さ」も地方の魅力です。

そしてなにより「身近に相談できる弁護士がいてよかった」「いままで困っていたんだよ」と言って感謝していただく時は、弁護士不在の地域で開業してよかったなと思える瞬間です。

稲敷市のように、ある程度の規模の自治体であっても、法律事務所がないといった地域はほかにも多くあると思います。

弁護士の場合には、たとえ故郷でなくとも、いやむしろ故郷ではないからこそ頼りにしてもらえる一面があることを知ってもらい、もし地縁がないことを不安に感じて躊躇されている方がいれば、参考としていただければ幸いです。